

# 光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2015年5月号>

98号 2015.05.01 配信

青葉若葉が美しい季節になりました。つつじは色鮮やかに咲き競い甘い香りを周囲に漂わせております。あたらしく職場につかれた方々、この1カ月は如何でしたか。順調にスタートされ、職場にも慣れてこられた頃と思います。職場で先輩と母校のお話をされている方もいることでしょう。ワーキングクラブではメールマガジンを通して、様々な情報を発信していきますので、皆様、是非とも同窓会及びワーキングネットワークの活動に参加して下さい。

## ■ 学園だより

- 創立記念式 5月1日(金) 75歳以上の卒業生が招待され、約400名参加されました。
- 東明学林「つつじ鑑賞」 5月9日(土)・10日(日) 10時～15時  
問合わせ先：昭和女子大学 東明学林 TEL 0465-83-5101

## ■ 同窓会だより

- 4月18日(土) 2015年度幹事会の報告

新幹事を迎え176名の参加。来賓の理事長・学長の坂東眞理子先生とアドミッション部長の藤島喜嗣先生から学園の近況のお話を頂きました。

新しく会員になられた方達の初々しい挨拶に、自分自身が社会人になったばかりの時は、緊張ばかりしていたことを懐かしく思い出しました。会場内のあちらこちらにおいて、年代を超えて、多くの会員同士が交流を行っておおり、微笑ましい光景が見受けられました。

是非、皆様も、学園に一度足を運んでみて、同じ学び舎で生活した先生方や先輩や後輩達と交流を図ってみてはいかがでしょうか。

- 5月17日(日) 第42回光葉同窓会総会をホテルメトロポリタン仙台で開催致します。  
5月18日(月) 「復興応援 ～石巻と閑上を訪ねて～」の仙台ツアーを行います。

## お知らせ

- 昭和女子大学光葉同窓会主催『アメリカ東海岸ボストン・ニューヨーク研修旅行8日間』  
期間：2015年9月4日(金)～9月11日(金)

9月5日(土)には光葉同窓会メンバーとボストン支部の皆様でボストン校に集い交流会を開催します。フランク・シュワルツボストン校学長、アビューザ順子先生、湯浅頭至先生に加えボストン校留学中の学生さん達も参加して準備を手伝ってくれています。東京からは金子朝子副学長が同行されます

## ■広げよう光の葉』

西野 真理さん

1984年 文家政学部生活美学科卒業

### 『私に居場所を作ってくれた母校の教え』

最近、口にすることや行動が、母校で教えられた理念に沿っていることに気付くようになりした。この年次になりますと、後輩の指導やプロジェクトマネジメントをする機会も出てきます。そういう立場にいる時は、とにかく率いていかななくてはなりません。決断の時は自分の中での指針に照らし合わせます。その時の指針になる考え方や行動は、もちろん親からの教えもありますが、母校の人間教育で学んだことが根っこになっていると思うのです。学内のあちらこちらにかかげられ、数えきれないほど見て聞いた言葉「世の光となろう」「奉仕の精神」が、社会人としての自分の行動の基礎となっているのを実感します。たとえば何年前にこんなことがありました。新サービスのPRを担当した時のことです。

私達の会社は、自分達の業界では殿様商売でしたが新サービスの業界では後発でした。そしてその新サービスの業界には「巨人」たる一番手の会社があって、いくら私達の会社が張り合っても畑違いで無理だ、と言われていました。今から考えたら完全な負け戦に出て行ったわけです。そんな中で売るためには「知って」貰わないといけません。競争したことがない会社ですから、「追いついて、勝つためにPRする」というDNAがなく、価値観も全くと言っていいほど違い、転職したての私は茫然としたものでした。でも、売らなきゃいけない。そのためには認知と好感を上げなくてはいい。ウンウン悩んでいた時に、光葉同窓会からの会報が送られてきて、「世の光となろう」「奉仕の精神」という言葉、文字が脳裏を走ったのです。自分のプランが失敗したら考えるのも恐ろしいほどの非難の嵐だとはわかっていましたが(私は転職して間もない新入りでしたし)、もうどう言われてもいいから半年だけ自分の考えたプランを実施させて貰おうと、上司を押し倒して何とか承認してもらいました。そのようなPRはその会社では初めての試みでしたが、自分は他社で何度も経験していることなので、五分の勝算はありました。

PRが当たるかなんて一か八かの賭けのようなものです。とにかくこういうやり方もあるのだと筋道を作ってみんなを案内してみようと考えたのです。「自分はどういわれてもいいから、このサービスをなんとか世に出したい、開発した技術方をがっかりさせたくない」「踏み出したことがない暗い闇の道なら自分が出て行って道を作ってあとから来る人たちの道を照らそう」という発想は母校の教えが基になっていたのだな、と今になってつくづく思います。また「失敗したら左遷でもなんでもしてください、失敗したら責任は取ります」という肝の据え方も、やはり母校で培った直球勝負の考え方だと思いました。そして当時懐疑的に見ていたまわりの同僚ちなみにその「戦」、ビジネスとしてはやはり「負け戦」になってしまいましたが、その時のPR施策はおかげさまで話題となり、関東地域では誰もが知っている、聴いたことがあると言われるまでになりました。そして当初懐疑的だった同僚たちは良い友人となりました。

あの時、昭和の教えが閃いたお蔭で肝が据わり、その結果転職者の私に居場所を作ってくれました。母校の教えに感謝しています。

End